

「これからのものづくり教育」

山形県高等学校教育研究会工業部会長

渡 部 慶 蔵

(山形県立長井工業高等学校長)

平成 21 年度の本部会の事業は、先生方の研修への熱意と運営面での御協力のお陰で大変充実したものとなりました。

いま日本は先の見えない経済不況に加え、円高、デフレと非常に厳しい経済状況が続いています。そのような中であって日本を支えるものづくりは、「いいものを安く」の価格競争でなく「よりいいものを高く」すなわち、高くても売れるものづくりへの転換を迫られております。

県でも県産米新品種「つや姫」のブランド化や山形カロツツェリアプロジェクト等に取り組んでおります。民間企業の例では、上山市の眼鏡屋（本業）さんが第二創業として、アメリカのウェスタン・エレクトリック社が 1940 年代までに生産していたオーディオ用のスピーカーを山形の得意分野である鑄造技術を駆使して再現しました。このスピーカーは 1 ユニット 70 ～ 80 万円もの値段ですがインターネットを通じて、国内外の愛好者から注文があります。このようなものづくりは、まさに新たな発想から生まれたものと言えます。

工業高校で「ものづくり人材」を育成する私たちにも、このような発想力が求められ、そのための不断の研究と研修が益々重要となってきました。

本部会では、年 2 回の技能講習と研究発表会を開催し、先生方の研究・研修の機会の充実を図ってきました。さらに、今年度は「本県工業教育の在り方」について 2 ヶ年にわたる特別研究委員会の研究成果も発表しました。本誌に報告書を掲載しましたので、各校の教育実践に是非活かしていただきたいと思います。

最後になりましたが、今年度の産業教育審議会企画部会の席上、企業側より工業高校で品質管理技術をしっかり指導して欲しいとの意見が出され、県工業校長会では（財）マエタテクノロジーリサーチファンドの助成により、県内 3 地区で QC 特別講座を開催しました。研修は企業の品質管理担当者を講師に招いて、多くの先生方に参加していただき、大変有意義なものとなりました。助成いただいた（財）マエタテクノロジーリサーチファンドの関係各位に本誌面をお借りして、深く感謝申し上げます。